

学校教育目標 「未来をひらく くじらっこ～やさしく かしこく たくましく」

学校報



# 南 港



R 8 . 2 . 1 No.10

〒010-0511

男鹿市船川港船川字漆畑36番地1

男鹿市立船川第一小学校

TEL 0185-24-3231

FAX 0185-24-3232

E-mail : funaichi@namahage.ne.jp

<https://edu.city.oga.akita.jp/funaichi-es/>

創立 明治8(1875)年2月12日

## 地域とつながり 地域を学ぶ

校長 松田 万寿雄

昨年4月のことになりますが、下金川地区で本校児童の見守りをしてくださっている方が、学校に足を運んでくださり、「昨年につき、行政と市民が一体となって登校時の児童の安全を見守るという取組に大変感謝しています。」ということをお話されていられました。その時の様子を冊子にしたものも拝見することができました。その話をうかがいながら、私自身もこの船川という地域のつながりを非常にうれしく感じました。

25年以上前のことですが、2年間ほど「地域社会」について調べたことがありました。「地域社会」とは「コミュニティ」の訳語であり、社会学者であるマッキヴァー氏が、「コミュニティとは、一定の地域において営まれる共同生活である」と概念規定しました。それが、今から100年以上前のことになります。そして、日本では、1970年代に国の行政を始めとして、様々な社会学者によりコミュニティについてさかんに論じられました。その中で社会学者 奥田道大氏は、4つの地域社会モデルの住民意識を提起しました。古い資料ではありますが、現在、みなさんはどのモデルの意識にあるのでしょうか。また、目指すべき地域社会の姿はどのモデルであればよいのでしょうか。

### 【地域共同体モデル】

この土地にはこの土地なりの生活やしきたりがある以上、できるだけこれにしたがって、人々との和を大切にしたい。

### 【伝統型アノミーモデル】

この土地にたまたま生活しているが、さして関心や愛着といったものはない。地元の熱心な人たちが地域をよくしてくれるだろう。

### 【個我モデル】

この土地に生活することになった以上、自分の生活上の不満や要求をできるだけ市政その他に反映していくのは、市民としての権利である。

### 【コミュニティモデル】

地域社会は自分の生活上のよりどころであるから、住民が互いに進んで協力して、住みやすくなるように心がける。

紙面の都合上ここでは詳しく説明できませんが、おそらく読んでみてお分かりになられたのではないのでしょうか。理想とする地域社会は「コミュニティモデル」ということに気が付かれたことと思います。

そして、理想とする地域社会（コミュニティ）の形成のために、子どもたちにとって「地域を学ぶ」意味を考えてみると、次のようなことが考えられます。

それは、地域は、学ぶ素材を子どもたちに豊富に提供し、体験的学習を進める機会を容易に与えてくれます。そして、そこで学んだことが一生涯忘れずに定着し、一つの力となります。また、地域をみることでその地域の課題に気づき、且つ地域の洞察・理解につながることもなります。そのことは、子どもたちの心の中に郷土愛、地域への所属意識、地域への共通感覚をもたらし、市民性の啓発を深めることになると考えられます。

本校がこれまで取り組んだ地域をフィールドとした活動を振り返ったときに、我々教師は、子どものため、地域のために、このような視点のもと地域の「ひと、もの、こと」を取り入れた教育活動に取り組まなければならないのだと強く感じているところです。



☆第18回税に関する絵はがきコンクール

【優秀賞（秋田北法人会）】 6年 ○○ ○○

☆第21回美郷チャレンジカップU-11フットサル大会

【4位グループ】 1位 男鹿ユナイテッドFC

・5年 ○○ ○○（優秀選手賞）、○○ ○○ ・4年 ○○ ○

・3年 ○○○○○、○○ ○○、○○ ○○、○○ ○○

☆第37回TOYOTAジュニアカップ少年サッカー大会

第4位・グッドマナー賞 グロースFC

・5年 ○○ ○、○○ ○○ ・3年 ○○ ○○

☆第7回男鹿潟上南秋児童生徒書き初め展

【金賞】 1年 ○○ ○ 4年 ○○ ○

【銀賞】 5年 ○○○○○

【銅賞】 3年 ○○ ○○ 4年 ○○ ○○ 5年 ○ ○○

☆第17回秋田県新春書初め席書大会

【特選】 5年 ○○○○○

第66回秋田県児童生徒美術展

【入賞】 1年 ○○ ○○

昨年12月に実施した保護者アンケートの集計（回収率95.2%）がまとまりました。アンケートは、大まかに「学校の教育活動や学校での子どもの様子」「家庭での子どもとの関わり」「学校・家庭・地域が連携して取り組むこと」の3項目について回答をしていただきました。学校では、この保護者アンケートの結果から、改善すべき点等について確認し、次年度の取組について検討をしているところです。ご協力ありがとうございました。

【保護者アンケートの結果（抜粋）】 ※結果の数値は設問に対する肯定的評価の割合です。

| 項目               | No. | 設 問 内 容                                 | 結果(%) |
|------------------|-----|---|-------|
| 学<br>校<br>教<br>育 | 1   | 学校生活の様子が、たよりやホームページなど様々な機会を通して伝わってきている。 | 94.2  |
|                  | 2   | 地域・保護者からの要望や意見が教育活動に生かされている。            | 82.4  |
|                  | 3   | 学校行事や児童会行事は、子どもが主体的に活動できるように工夫されている。    | 98.2  |
|                  | 4   | 子どもは、体験活動や奉仕活動を通し、思いやりの心が育っている。         | 90.4  |
|                  | 5   | 子どもにとって学習は、「分かる」「できる」と実感できるものになっている。    | 88.1  |
|                  | 6   | 子どもは、家庭学習の習慣が身に付いていると思う。                | 73.5  |
|                  | 7   | 子どもは、いろいろな場面で適切なあいさつをしていると思う。           | 90.8  |
|                  | 8   | 子どもは自分の生活を振り返り、自分をよりよくしようとする態度が見られる。    | 78.3  |
|                  | 9   | 子どもは、学校生活を楽しんでいると感じる。                   | 89.2  |
| 家<br>庭<br>教<br>育 | 10  | 家庭では、学校生活の中で努力することを働きかけている。             | 86.9  |
|                  | 11  | 家庭では、子どもの変化に気付いたときは、ほめたり励ましたりしている。      | 99.2  |
|                  | 12  | 家庭では、あいさつや言葉づかいに対して、日頃から子どもに意識付けをしている。  | 96.6  |
|                  | 13  | 「早寝」「早起き」「朝ごはん」を家庭でも実施している。             | 87.4  |
|                  | 14  | テレビやゲームの時間は家庭での約束を決めている。                | 78.2  |
| 連<br>携           | オ   | 人を思いやり、親切にしたり、人と助け合ったりすることができる。         | 76.1  |
|                  | イ   | よいことと悪いことの区別をして、進んでよいことを実行できる。          | 54.7  |
|                  | エ   | あいさつがきちんとできる等、礼儀正しい行動ができる。              | 40.2  |

※連携は、9項目の中から3つ選択をしていただいた結果で、9項目中多かったものから順に3項目を載せました。

保護者の皆様の学校教育活動へのご理解とご協力により学校行事等もスムーズに進めることができきています。子どもの様子に気を配り、前向きに学校生活を送ることができるよう家庭でも働きかけていただいていることが分かります。しかしながら、「家庭学習への取組」「よりよくしようとする態度」「テレビ等の視聴時や利用時の約束」などについては、他の項目よりもやや低くなっています。学校と家庭がより一層手を取り合って働きかけていく必要があると感じています。子ども一人一人の自己有用感を高め、様々な活動に取り組めるように連携を深めていければと思います。